

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1491000012
法人名	有限会社 ケア-メディカル ことり
事業所名	グループホーム ことりの森
訪問調査日	平成 21年 5月 20日
評価確定日	平成 21年 6月 20日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	1491000012
法人名	有限会社 ケア-メディカル ことり
事業所名	グループホーム ことりの森
所在地	横浜市戸塚区名瀬町613-1 (電 話) 045-814-6072

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年5月20日	評価確定日	平成21年6月20日

【情報提供票より】(平成21年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 9 人, 非常勤 10人, 常勤換算 13.5人	

(2)建物概要

建物構造	木造スレート葺 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	----------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000	円	その他の経費(月額)	70,000	円
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(230,000 円)		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,000円				

(4)利用者の概要(平成21年5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.11 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大船中央総合病院、湘南お茶の水クリニック、湘南かさまクリニック、奥田歯科医院、ますこクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇当事業所は、リビングから里山や畑が一望でき、「ことりの森」の名に相応しく、小鳥のさえずりや四季の移り変わりが実感できる静かな環境にある。 ◇理念に「健康管理の充実」を掲げ、5か所の協力医療機関と連携している。また、看護師である管理者と他の看護師の職員が中心になって、医師の指示で酸素吸入や点滴を行うなど、利用者が安心して終末期を過ごせるように支援している。 ◇毎月季節に応じた行事を、利用者と職員が知恵を出し合い準備段階から取り組み楽しんでいる。行事の様子は毎月発行している「ことりの森たより」で家族へ報告している。 ◇天気の良い日は日課として、数人づつ車いすの方も一緒に職員と近隣に散歩に出かけている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・前回の外部評価での課題であった「災害対策」については、5月の運営推進会議で議題として取り上げた結果、地域の協力を得ることができ、6月に避難訓練の実施を予定している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・管理者がケアカンファレンスで外部評価の意義を説明し、自己評価については全職員が分担して取り組み、その結果を基に管理者と主任が中心となって各フロアごとに取りまとめた
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・運営推進会議は3か月ごとに、利用者の家族、自治会代表、名瀬町社会福祉協議会理事、地域包括支援センター職員、事業所の管理者、職員が参加して実施している。 ・会議では、事業所の現状や行事予定、職員の移動等を説明している。 ・事業所の運営について、毎月の行事が充実しており利用者が楽しんでいる、面会時には、職員、利用者共に快く受け入れてくれるなどの意見があった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・管理者は家族の意見や要望が出やすいように、行事への参加を呼び掛けるなど話しやすい雰囲気作りに心がけている。 ・家族会を開催しているが、現在まで苦情や要望は出ていない。 ・家族からの健康面の相談などには管理者が随時対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・地域の自治会に加入している。利用者が盆踊りやお茶会などに参加したり、日常的に散歩で挨拶を交わすなど地域との交流を深めている。 ・中学生が福祉体験学習で事業所を訪れ利用者と交流している。 ・地域のボランティアに手芸を教えてもらったり、踊りや紙芝居を披露してもらっている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・利用者の健康で安定した暮らしの継続を第一に考え、理念に「ご利用者の人格を尊重し、健康管理の充実と温かい家庭的な雰囲気ですぐに生活が送れるように」を掲げている。 ・利用者が地域に慣れ親しんでいけるサービス提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念を事務所内に掲示している。又、管理者と職員は毎月のケアカンファレンスで、理念の具現化を話し合っている。 ・理念の実践に向け、職員は利用者の体調の変化に留意するとともに、利用者同士が役割を持ち互いに尊重し合うことを目指し、笑顔で日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の自治会に加入し、利用者が盆踊りやお茶会などに参加したり、散歩で挨拶を交わすなど、地域との交流を深めている。 ・中学生が福祉体験学習で訪問して利用者や交流したり、ボランティアに踊りや紙芝居を披露したりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・前年度の評価結果を全職員で確認して改善に取り組んだ。 ・管理者がケアカンファレンスで外部評価の意義を説明し、全職員で分担して自己評価票に取り組み、各フロアごとに管理者と各主任が中心となって取りまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は3か月ごとに、利用者の家族、自治会代表、名瀬町社会福祉協議会理事、地域包括支援センター職員、管理者、職員が参加して実施している。 ・事業所の現状や行事予定と実施状況、職員の移動等を説明し、出席者の意見や助言を聞いている。		

ことりの森

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・管理者は高齢者支援担当課と連絡をとり、運営や業務について相談したり助言を得ている。戸塚区から要請された利用者も受け入れており、担当課の職員が訪問している。 ・戸塚区グループホーム連絡協議会に参加して、他事業所の職員と交流し情報を交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月、カラー刷りの「ことりの森たより」に、写真や文章で利用者の日ごろの生活ぶりや行事の様子を掲載して、金銭出納帳の写しと一緒に家族へ送付している。 ・管理者は利用者の健康状態や生活の様子を、家族との面会時や電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・施設内外の苦情・相談窓口は、重要事項説明書に明記しており、契約時に説明している。 ・家族の意見や不満、要望は家族の来訪時や行事の都度開催している家族会で聴取しており、内容に応じて事業所の運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・管理者は、職員が働きやすいように配慮している。 ・職員は管理者の運営方針を理解しており、職員の交代は、現在まで系列施設への異動1件と定年退職のみである。 ・利用者には、職員の交代をその都度ダメージを与えないよう、それとなく伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者は、事業所内外での認知症介護についての研修実績を生かし、会議や日常業務を通じて職員の育成に努めている。 ・外部研修案内を職員に紹介して参加を奨励している。 ・職員は日常業務の中で相互に学び合い、介護知識と技術の習得に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・「全国認知症グループホーム協会」と「戸塚区内のグループホーム連絡会」に参加して情報を得ており、又、同業者と交流する機会となっている。 ・近隣の特別養護老人ホーム主催の文化祭や作品展に参加しており、職員同士が交流する機会となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者・家族には、入所前に事業所を見学してもらい、利用者と職員の共同生活であることも含め十分に説明している。 ・入居者には、新しい利用者が入居することを事前に伝え、お互いに馴染めるように配慮している。 ・最初の3か月を利用者との信頼関係を築く大切な時期ととらえ、管理者、職員は特に密接に係わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は利用者と一緒に過ごしながら家事の仕方などを学び、お互いにねぎらいの言葉をかけている。 ・また、運動会、クリスマス会などの行事やレクリエーションは、お互いに知恵を出し合い一緒に企画し、練習して楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居前の面談で利用者や家族から、生活歴や習慣、暮らし方の希望などを聞き取っている。 ・入居後は、職員が日常的に利用者に傾聴し、また、表情や行動を観察して本人の意向を汲み取り、カンファレンスで検討して対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者別の担当職員が中心となり、利用者の生活習慣を書きとり、本人や家族の意向も聞き、ケアカンファレンスで検討して介護計画を作成している。 ・「24時間生活アセスメントシート」に、利用者の行動や活動状況を記載して、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は3か月ごとに、安定してきた場合は6か月から8か月で見直している。 ・ケアカンファレンスでは、利用者一人ひとりの様子を詳細に検討し、状態に変化が見られたときは、その都度本人や家族の意向を入れて見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・協力医療機関が5か所あり、看護師でもある管理者が医師に相談し医療連携体制を整えている。また、看護師職員が、24時間体制で医療処置を行っている。 ・利用者の通院や入院の際は必要により管理者が家族に代わって医師から説明を聞くなどの対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族から入所前のかかりつけ医への継続受診の希望があれば対応している。 ・内科医の訪問診療が月1回、又、随時歯科医の往診があり、管理者が利用者の健康状態をその都度報告し、医師の指示を得ている。夜間の緊急時対応は総合病院と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・終末期の対応マニュアルに基づき、管理者が職員を教育している。職員の半数は痰の吸引に対応できる。 ・これまで、がん末期の利用者を5名受け入れ、現在も1名の方が医師の指示で看護師職員を中心に酸素吸入や点滴を行い安心して終末期を過ごせるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は採用時に管理者から、個人情報保護の説明を受け、「誓約書」を提出している。 ・職員は日頃よりプライバシーを損なわないような言葉遣いや対応に留意している。 ・個人情報に関する記録は施錠できる書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日のおおよその流れはあるが、午前中、利用者に一日の過ごし方の希望を聞いて、体調に配慮しながらできるだけ意向に沿うように配慮している。 ・全員が共に過ごすことも大切にし、利用者と職員が一緒に体操やお茶を飲みながら会話、レクリエーションを楽しんでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の意向、能力に応じて、また、当番制も取り入れ、職員とともに下膳・食器洗いなどを行っている。 ・職員は卓上調理器で作りながら盛り付けをするなど、利用者が食事作りの様子や匂いに関心を持ち、食事を楽しめるよう工夫し、利用者と一緒に会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は週2回(夏場は希望により3回)、「ゆっくり、清潔に」を心がけて、職員2名で見守り介助している。 ・ゆず湯、菖蒲湯や入浴剤で入浴を楽しめる工夫をしている。 ・職員の利用者一人ひとりにあった声かけや対応で安心感を持ち、入浴嫌いの方も少なくなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・植物の水遣り、洗濯物干し、食器洗いなど利用者の得意なことをお願いし、その都度職員はお礼の言葉をかけている。 ・リビングからは林や畑の四季の移り変わりが眺められ、ベランダ、ウッドデッキに縁台を置き、気晴らしや外気浴ができる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は日課として数人ずつ、徒歩や車いす、押し車などで職員と近隣に散歩に出かけている。 ・季節ごとに遠出のお花見や公園散策、初詣など様々な行事を企画し、車で戸外に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関、居室とも鍵はかけず、玄関からはいつでも出られることを伝えている。 ・運営推進会議で徘徊ネットワークについての助言があり、家族の意見も参考にして検討している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・緊急時対応マニュアルがある。消火器や、通報装置の設置場所と・使い方、避難場所の把握などの訓練を、年1回行っているが、避難訓練は実施していない。 ・非常用食料、缶詰、飲料水を備蓄している。	○	・6月に消防署の指導を得て、訓練の予定と伺いました。 利用者を含めた避難訓練の実施を期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・摂食状況は毎食後記録し、水分は1,000ml/日以上摂るようにしている。体調不良の方は水分量を記録している。 ・職員が旬の食材を取り入れて献立を作成し、管理者がカロリー計算している。医師の往診時に食事をしてもらい、栄養バランス等の助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間は清潔で気になる臭いはない。換気、明るさ、温度、湿度を職員が調整している。 ・リビングにはテーブルやソファ、廊下にはベンチコーナーが設置されている。 ・キッチンからは調理の匂いが漂い、リビングには、季節感のある装飾、行事の写真などを掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には使い慣れたものや好みもの(整理たんす・テレビ・人形・家族の写真、カレンダーなど)を持ち込み居心地良く過ごせるようにしている。 ・換気・室温に配慮し、居室担当職員が必要に応じて掃除や物の整理を支援しており清潔感が保たれている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ことりの森
（ユニット名）	かえで・&もみじ
所在地 （県・市町村名）	神奈川県横浜市戸塚区名瀬町613-1
記入者名 （管理者）	久保田 志津
記入日	平成 21 年 4 月 29 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々の散歩の中で入居者の方々は、ことりの森周辺の環境を楽しまれている。	○	その人らしくとは？9人×2ユニット18名全ての人が、その人らしく暮らし続ける事は簡単な事ではないと思います。環境に慣れて楽しんでいただける様に時間をかけて取り組んで生きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のケアカンファレンス等にとり入れ具体的な働きかけを職員全員で行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の新聞、タウンニュース、タウンページに理念や行事等を掲載している。地域の学生・ボランティアを受け入れている。文化祭等に作品を出展している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩やゴミ収集所までの道のりの中で近所の方々と挨拶を交わしている。地域推進会議でも町内会の方々にも、いつでも見学やお茶を飲みに来て下さる様に声かけしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、盆踊りやお茶会に参加。中学生のボランティアを受け入れ、文化祭に出展。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話で相談や見学は受け入れている、又、地域ケアプラザで地域の認知症をかかえる家族の為に勉強会を行なった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行っている。昨年度の結果が出た後、全員で確認し業務の見直しを図った。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度、順調に会議は行われており貴重なご意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者支援担当の方々へ連絡や相談をさせていただいている。生活保護の方の受け入れ相談も行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者は現在2名。1名は入居後、家族の相談を受け利用開始している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファレンスで虐待に対しての話し合い(どのような事が虐待になるのか等)を職員全員で行い、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットに理念を一番に記載し利用者のご家族に説明している。共に重要事項もホーム玄関に掲示している。見学・面接・入居時に十分説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付様式の用意はある。現在まで苦情が無い為、事例記録はなし。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	施設内での行事、生活を写真に収め、たよりに掲載し月に一度、家族へ配布している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議を行ない、ご家族・地域の方々より意見をいただき反映させている。また、相談を随時受け入れている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスの中で意見交換などを行ない、日々のケアに反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況(通院・役所への送迎など)がある場合には、勤務調整し対応。日中は1人欠勤しても大丈夫な勤務体制になっている。夜間は管理者が緊急時対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職がほとんどなく、利用者への影響はみられていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が経験者が多く認知症研修や相互研修を多々行なっている。様々な研修の中から個々の職員に応じた研修をうけてもらっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が連絡会に参加し交流の機会を設けている。地域施設の文化祭や作品展などに参加し、ネットワークづくりを行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフにストレスが溜まらない様にカンファレンスにて充分話し合いをする。飲み会・カラオケを適時行なっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	カンファレンスにおいては全職員への指導・助言を行ない、日常の業務の中では個々の職員に対し状況に応じた声かけを行ない前向きに勤務できる状況をつくっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず面談をさせてもらい、状況把握とともに職員の存在を把握していただき安心感を持っていただく努力を行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず面談をさせてもらい、様々な相談をお聞きして入居していただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在まで苦情が無い為、事例記録はなし。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの家庭的な生活、共同生活を送れるように本人の出来ることを具体的に検討し、生活の中に取り入れていくようケアしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクや季節に応じた行事などを多くもち、ご利用者、スタッフともに同じ感動や共感を持つように心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日にはレストランでの外食やお花見、バーベキュー大会、敬老会、運動会、クリスマス会、豆まきなど行なっている。又地域の芸術祭、盆踊りなどにも出掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間や外出・外泊も自由でご家族にもいつでも来所して頂ける様にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類が好きな時間に面会に来られ、外食や買い物へ外出される。又、年賀状を制作し送る。ホームでのイベント・パーティーにはご家族を招待している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	多種多様なレクリエーションを考案し、お互いがコミュニケーションを図れるような、環境を保てるよう、常に意識している。協力してひとつの物を作り上げたり、運動会でチームワークを発揮するリレーなどを行なったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	定期的にスタッフやご利用者に会いに、お花を持ち遊びに来られたりされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を傾聴し、日常生活の中から出来ることを定期的なカンファレンス会議にて対策を検討している。認知症のため、言葉と気持ちに違いがあり、行動や表情の観察を十分に行ない本人の意向を見極めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表をスタッフ一同で定期的に作成し、ケアの方針を立てるのに役立てている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的に作成した24時間アセスメント表をもとに身体・精神状態に考慮したプランを作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の業務時・カンファレンス時にスタッフ全員の意見を傾聴し、プランに盛り込んでいる。又作成した書類は所定のファイルに保存しいつでもスタッフが確認できるようになっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度カンファレンスを行いADLの向上や精神状態の安定を細かく話し合い、現状にあったケアを作成している。作成したケアプランを家族に送付している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後、時間ごとに記録している。毎日のレクを中心に具体的に記録し介護に繋ぎさせ、介護計画作成に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族との外出、外泊は自由である。面会時間もご家族の好きな時間に対応している。通院、入院時の対応も行なっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの特別養護老人ホームへ芸術祭等に出掛け、徘徊者に対しての協力体制について話し合いをしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターからの相談やケアプラザのケアマネの方々より入居に関しての相談や家族への見学等も行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターならびに区役所の相談員の方にも関わってもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/月の往診、1回/2wの処方、検査も定期的に行ない常にDrとの伝達も出来る。		

ことりの森(かえで・もみじ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月に一度の医師の往診を実施し、個々の利用者対医師のコミュニケーションを持てる時間を作り、利用者の精神面、体調の変化に対応してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が2名(管理者・職員)おり、日々の観察・申し送り事項から利用者の健康管理に勤めている。緊急時にも随時連絡体制が整っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時からDrとの話し合いを行ない、家族の希望も聞き入れながら早期の退院を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに癌の末期の方を5名受け入れ終末期を送っていただいている。往診Drとの連携で点滴治療や酸素なども行なっている。入居中に胃ろうになった方も受け入れている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	受け入れ時より、重度の方は職員全員で今後の変化について話し合い、Drより指導いただき最後まで支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前の面談にて本人に係る保険医療福祉関係や家族などと十分な情報交換をした上で入居する事のダメージを最小限に食い止める方法を考えた上で安心して入居して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々にあった言葉遣いを心がけ職員全員が同じ様に接するようしている。清潔を心がけ、見守り、声掛けをしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	散歩へと促す際に気持ちが良い、足のリハビリになりますよ等、色々な声掛けをしている。個人の誕生日には希望を聞き入れ外食やメニューを決めている。レクリエーションに関しても、何をしたいかを決めていただくこともある。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	植物への水遣り、洗濯物干し、食器洗いを自ら手伝って下さる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1～2回の美容師の訪問があり希望にあったカットやヘヤカラーを行なっている。洋服の訪問販売も利用し、自分の目で好みに合ったものを購入してもらっている。居室担当者が身の回りのお手伝いを行なっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間もゆったりとしている。食べる時の姿勢などにも気配りする。介助の必要な方には横で職員が付添っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望時に居室担当者が購入し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツ・パット等が必要になった時は説明を充分に行い声掛け・誘導・見守りにて介助している。汚染が無い時は「すごいね」「よかったね」等の声掛けをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴で1人ずつ浴室に入り、温度の調節や自立に向けて見守りをしている。又、夏場は希望にて週3回の入浴としている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日の中でメリハリをつけている。外気浴・体操・散歩等にて体内時計を自然に身に付け夜間は良眠している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者に適した役割を分担したり、意見を聴いて、本人のしたい事等出来る事には参加して貰う。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居中の方では1人ですが自己管理しています。洋服屋さん等が来所された時は自分で支払っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、午前中の散歩を行なう様にし、四季の変化を体感して頂いている。又近隣の行事、催しに積極的に参加するように心がけている。一人一人に声をかけし、参加者を募る。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者との日々ふれあいの中から希望を把握するよう努力している。外出・外泊・墓参り等行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の取り次時、他入居者への影響を考え居室にて話して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限なく、家族訪問時の挨拶やお茶・コーヒーをお出しすることを必ず行ない、気軽に来ていただける雰囲気をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵に関して、ご家族の同意を得て転落防止のために行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を使用せず、いつでも出られる事を話している。居室に外から鍵は掛けられないようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々にあった言葉遣いを心がけ職員全員が同じ様に接するようしている。清潔を心がけ、見守り、声掛けをしている。楽しく食事が摂れるよう話題を提供する。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険がない範囲内で個々の状態に応じて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ほぼ毎日看護師が出勤しており、ある程度の対応は出来る。緊急時はマニュアルに添って全職員が対応できる状態である。		

ことりの森(かえで・もみじ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1回のカンファレンスや日々の申し送りの中で必要に応じて行なっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難方法の体制・マニュアルは出来ている。隣の住人の方より直通電話もOKとの事でいつでも手伝ってくださるとの言葉は頂いている。また、今後戸塚消防署へ防火指導を依頼し、防火訓練を行なう予定。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時より個々の疾患・ADLより起こり得る事柄をご家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の申し送りノートに入居者の変化、異常がある場合は、記録し全ての職員が内容を把握できる体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は看護婦が行なっている。利用者名事に朝・昼・晩・眠前と分けており、日にちも記入され、解かり易く管理している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、体操・散歩などで身体を動かしていただいている。又、ヨーグルト・食物繊維の摂取を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後職員の見守りの中、入歯の手入れ、自歯の磨き、うがい等なるべく、ご自身で出来るよう支援している。又AM・PMに一回づつイソジンガーグル使用のうがいを実施している。		

ことりの森(かえで・もみじ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々で状態変化時、水分チェック表で状態は把握してある。毎日食事摂取量のチェックをしている。栄養士に食事チェックの助言は得ていないが糖尿病の方がおり、内科Drにチェックして頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員と利用者の予防注射を義務化し、感染予防を心がけている。又毎入浴時に皮膚状態を確認し疥癬予防等も実施している。(塗布処置)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	スタッフの目の付く冷蔵庫に貼ってある。問題がある度にマニュアルが作成され貼り出され申し送りされる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はカギを閉めていない。表札は木製で手作りの物で温かみのあるものになっている。花は一年中きらず事無く植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の札も全て手作り。調度品は明るく・温かみのある物を揃えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に畳・カーペットを敷き、ソファでくつろいでいただいている。又、テラスには縁台を置き自由に外を眺めていただいている。		

ことりの森(かえで・もみじ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内に記載し、ご家族にも説明を行ない協力してもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除等をこまめにする事で換気につとめ、空調も季節に応じた調整をスタッフ、入居者と話し合っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活スペースには手すり設置済み。浴室にはスベリ止めマット・シャワーチェアを用いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・居室入り口には、目立つ位置に・見た目が温かい印象のネームプレートを付けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1Fウッドデッキ・2Fベランダには花を豊富に育て、入居者の方々に水やりをしてもらっている。全員が腰を下ろして日光浴が出来る縁台を設置している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ことりの森(かえで・もみじ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月行なっている季節感のある行事。利用者・職員が準備段階より熱心に取り組んでいる。
- ・毎月作成し、ご家族にお送りしている『ことりの森たより』。行事を中心に利用者の方々のご様子を写真入でお伝えしている。
- ・職員の離職がほとんど無い為に、顔なじみの安心した雰囲気ができている。
- ・表札をはじめ、ほとんどの物が手作りで温かみのある空間づくり。
- ・リビングから見える自然の景色・絶やさずに植え続けている色とりどりの花。